

# 解答・解説

## 凡例および注意点

① = 大問番号    ❶ = 段落番号    ❶ = 文番号

### 解答部

\_\_\_\_\_ = 正解部分  
(    ) = 省略可能  
[    ] = 直前の語句との入れ換え可能

### 解説部

㊦ = 主語    ㊧ = 動詞    ㊨ = 目的語    ㊩ = 副詞 など  
「    」 = 訳（基本は直訳）、あるいは強調  
(    ) = 省略可能、あるいは補足・別表現  
【語句】 = 該当箇所の重要語句  
[ | ] = 発音。左側が発音記号。右側が目安となるカタカナ表記で、ゴシック体はアクセント  
⇒ = 派生語・反意語 など  
㊰例 = 例文。暗唱できるようになることを強くお勧めする  
【文法】 = 該当箇所の重要文法事項

### 日本語訳部

文構造にできるだけ忠実に、自然な日本語を心がけた

### 重要語句確認部

㊱ = 名詞    ㊲ = 動詞    ㊳ = 形容詞    ㊴ = 副詞 など  
□        = チェック欄  
[    ] = 発音記号  
「    」 = 意味

解答

1

- (1) 在日外国人が社会の一員として日々心配なく生活を送れる環境を整えること。
- (2) ( A ) (エ) ( B ) (イ) ( C ) (ウ)
- (3) 留学生を除く在日外国人のための日本語教育システムは、地域のボランティアに支えられているということ。
- (4) 主に留学生が多い地域において、特別な日本語指導を必要とする子どものために、日本語と数学を別々の教室で受講することを容認している。
- (5) (ア)
- (6) 日本政府は、日本で働くことを目指す外国人を現地で支援するために、そのシステムに関する議論を率先して始めるべきである。

解説

凡例： ❶ = 段落番号、❷ = 文番号

- (1) 本文内容の一部を日本語で説明する記述問題。示された語句が指す内容を過不足なく自然な日本語で説明する。代名詞などは極力使わず、できるだけその説明だけで内容が理解できること、5W1Hを満たすことを心がける。採点者の視点である客観性を意識すること。  
下線部(1) this goal「この目標」を含む文は、❶❷ ㊦ An important part of realizing this goal ㊦ is 補・名 [raising ㊦ the Japanese language proficiency of foreign residents].「この目標を実現することの重要な部分は、外国人居住者の日本語の技能を上げることである。」が直訳。形容詞 this から、goal の具体的な内容はこの前に示されていると判断できる。この前の文の構造は次のとおり。❶❶ ㊦ [Fostering ㊦ {an environment ㊦ where ㊦ foreign nationals ㊦ can carry out ㊦ their daily lives「外国人が日々の生活を遂行できる環境を育むことは」 ㊦ as a part of society「社会の一部として」 ㊦ without worry}「心配なく」 ㊦ is becoming 補・名 [a growing challenge for Japan].「日本にとって育ちつつある課題になりつつある」主語の中心は動名詞 Fostering「育むこと」。その目的語となる名詞の中心は an environment「環境」(先行詞)で、これを関係副詞 where 以降 without worry までの節が修飾する形。動詞は現在進行形の is becoming で、補語は名詞の a growing challenge 以降。この内容において、「目標」の意味になるのは主に主語の部分。直訳では日本語が不自然になるので、意味を咀嚼したうえで、内容的に過不足ない自然な日本語にする。
- (2) 空所補充の選択問題。「前後の文脈から判断して」の問題文のとおり、空所の前後が文法等の面で論理的に、かつ内容面で自然につながるものが、正解判断の上でもっとも大切である。

空欄 (A) を含む文は、❷❷ ㊦ [接 As ㊦ that number ㊦ continues to grow ㊦ each year],「その数字が年々成長し続けるにつれて」 ㊦ there ㊦ have been ㊦ [some cases of trouble in schools and workplaces「学校や職場において、いくつかのトラブルの事例がある」 ㊦ where ㊦ foreign residents ㊦ have been unable to become 補・名 part of the local community]「外国人居住者が地元の共同体の一部になれていない」(A) a lack of understanding of the Japanese language or other communication breakdowns.「日本語の理解不足、あるいは他のコミュニケーション途絶が理由で」という構造。空欄前の「外国人が地元の学校や職場でうまくなじめていない」という内容に対し、空欄後の「日本語などのコミュニケーションの理解の欠如」は、その原因を表していると判断できる。以上の内容面を念頭に、選択肢を代入してみる。正解は前置詞句の(エ) due to「～が原因で」。続く a lack ～が名詞(句)で、前置詞(句) due to の目的語になる。(ア) thanks for ～「～への感謝(～に感謝する)」は、内容的に〈原因〉ではなく、文法的に前置詞句でもない。thanks to ～「～のおかげで」ならば前置詞句だが、内容的は不適である。(イ) because「なぜなら」は、内容的には〈理由〉を表すが、ここでは文法的節が続かなくてはならない。because of ～「～が理由で」ならば正しい。(ウ) such as ～「～といった、～のような」は、文法的には前置詞句だが、内容的には理由でなく〈例示〉を表すので、不適。

空欄 (B) を含む文は、❷❶ ㊦ [A survey ( B ) the Agency for Cultural Affairs ㊦ in fiscal 2016] ㊦ found ㊦ [接 that「2016 会計年度に、文化庁 ( B ) 調査は～ということがわかった」 ㊦ roughly

220,000 foreign nationals ㊦ were learning ㊦ Japanese,「概算で22万の外国人が日本語を学んでいた」 ㊦ with the figure「数字を伴って」 ㊦ having grown ㊦ by 90,000 ㊦ over a five-year period].「5年にわたって9万人成長した」の構造。述語動詞(文の動詞)が found、その目的語が that 節であることがわかる。空欄は、主語の中心と思われる不特定の名詞 A survey「蝶さ」を、続く the Agency for Cultural Affairs「文化庁」によって後置修飾するために必要なもの、つまり、空欄前後で「文化庁による調査」の意味になるものと判断できる。正解は形容詞用法の過去分詞(イ) carried out by「(文化庁)によって実施された」。carry out a surveyで「調査を実施する」の意味。(ア) conducting「おこなっている」では、「文化庁を(おこなう)」という目的語にそぐわない。(ウ) asked by「(文化庁)によって尋ねられた」は、ask a surveyとは言わないので、コロケーション(語の結びつき)的に不可とする。仮に、(a survey) asked for by (the Agency)「文化庁によって求められた調査」ならばコロケーション的には問題ない。(エ) operating「操作している、運用している」では、(ア)と同様、「文化庁を(運用する)」という目的語にそぐわない。分詞は、名詞を修飾する形容詞用法で後置修飾する場合、その名詞と分詞との関係が〈能動(現在分詞)〉か〈受動(過去分詞)〉かを見極めることが大切。㊦ the factory making the bags「そのバッグを作っている工場」(能動関係「工場→作る」)、the bags made in the factory「その工場で作られたバッグ」(受動関係「バッグ→作られる」)

空欄 (C) を含む文は、❷❶ ㊦ The Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology ㊦ reported ㊦ [接 that「文部科学省は～と報告した」 ㊦ there ㊦ were ㊦ { ㊦ 44,000 students ㊦ ㊦ that ( C ) ㊦ special Japanese language instruction ㊦ in the 2016 academic year]「2016 学校年度に、特別な日本語の指導を ( C ) する4万4,000の学生がいた」 — 1.7 times the number 10 years earlier].「それはつまり、10年前の1.7倍の数」という構造。述語動詞 report の目的語である that 節が There is/are 構文になっている形。There is/are 構文は、動詞の後に主語がくる倒置構文。主語は必ず名詞なので、44,000 students 以降は名詞のまとまりということになる。さて、選択肢はすべて動詞 need の活用形で、that は 44,000 students を先行詞とする主格の関係代名詞とわかる。関係代名詞は文を節に変換するときの記号で、先行詞がその文の主語のときは主格、目的語のときは目的格となる。例えば、The students need the special instructions.「その生徒は特別な指導を必要としている。」という文を、関係代名詞を使って名詞節に変換するとき、主語 the students を先行詞にする名詞節は the students that/who need the special instruction「特別な指導を必要とする生徒」となり (that/who が関係代名詞)、目的語 the special instructions を先行詞にする名詞節は the special instructions (that/which) the students need「生徒が必要とする特別な指導」となる(目的格の関係代名詞 that/which は省略される)。ここでは、主節の動詞 reported が過去形なので、従属節として

の that 節中も〈時制の一致〉の影響を受けて過去形になる。したがって、正解は過去形の(ウ) needed。原形(現在形)の(ア)と三単現形の(エ)は不可。現在分詞(イ) needing は、関係代名詞 that があるので不可。ただし、例えば that がなくて students needing special instructions「特別な指導を必要とする生徒」であれば、名詞 students を後置修飾する現在分詞の形容詞用法となるので、文法的には可。

- (3) 本文内容の一部を日本語で説明する記述問題。問題文を正しく読み取り、論理的で客観的な解答を心がける。  
下線部(2) of the some 38,000 Japanese instructors across the country, 60 percent were found to be volunteers. は「全国およそ3万8,000の日本語指導者のうち、60パーセントはボランティアだった」の意味。問題文「これがすなわちどういうことを意味すると筆者は考えているか」から、次の文の That is to say「すなわち、つまり」に続く内容を答えれば正解になるとわかる。㊦ [the Japanese language education system for adult learners excluding foreign students]「外国人学生を除いた、大人の学習者のための日本語教育システムは」 ㊦ is supported ㊦ by local volunteers.「地元のボランティアによって支援される」この部分を、自然な日本語で説明すればよい。
- (4) 本文内容を日本語で説明する記述問題。  
文部科学省の対策に関する記述は2カ所。❷❷ The Education Ministry is writing up teaching guidelines and materials for instructors, but with the diversity of classroom environments, it is hard to keep up with the reality of the situation.「文科省は指導要領と教材を提示しているものの、教室の環境は多様で、実情に合わせることは難しい。」の部分と、❷❶ ㊦ [For children ㊦ requiring ㊦ special Japanese language instruction],「特別な日本語の指導を要求する子どもたちのために」 ㊦ the Education Ministry ㊦ has allowed ㊦ such students「文科省はこうした生徒たちに許した」 to take ㊦ Japanese language and math「日本語と数学を取ることを」 ㊦ in a separate classroom.「別々の教室で」 ㊦ But「しかし」 ㊦ this measure ㊦ is ㊦ apparently ㊦ mainly 補・形 restricted「この措置はどうやら主に限られている」 ㊦ to areas with large numbers of foreign students.「外国人学生の数が多い地域に」の部分。前者は問題文に示されているので、後者の部分を「対策」として答えればよい。副詞節中の現在分詞 requiring は直前の名詞 children を後置修飾する形容詞用法。主節の allow O to do「Oが～することを許す」の語法において、O は to do の意味上の主語を表す。
- (5) 本文内容との一致・不一致を判定する選択問題。一致・不一致のどちらを選ぶにかかわらず、内容に一致ならば○、不一致ならば×を選択肢の後ろにメモし、最後に問題文に合わせて選択肢記号を選ぶよう習慣づけるとよい。  
下線部(3) a basic bill の具体的な内容は、不定冠詞 a から、この後に示されることがわかる。(a basic bill) to promote Japanese language education for foreign nationals residing in Japan.「日本に居住している外国人のために日本語教育を促進する(基本法案)」 ❶